

県内経済 〈3月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

電子部品は前年を上回ったものの、木材が前年を下回ったほか、機械金属も低迷が続いている。建設は、公共工事が前年を上回ったが、住宅着工は前年を下回った。個人消費は全体として緩やかに回復している。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、AI関連の需要拡大にともない、データセンター向けのHDD部品の生産が増加し、10か月連続で前年を上回った。機械金属は、ウエイトの高い輸送機械で、国内向けが大きく落ち込み、25か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（2月）は2か月連続で前年を下回った。製材品は3か月連続で前年を下回った。公共工事請負額は、2か月連続で前年を上回り、年度累計でも前年を上回った。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事とも振るわず、5か月連続で前年を下回った。

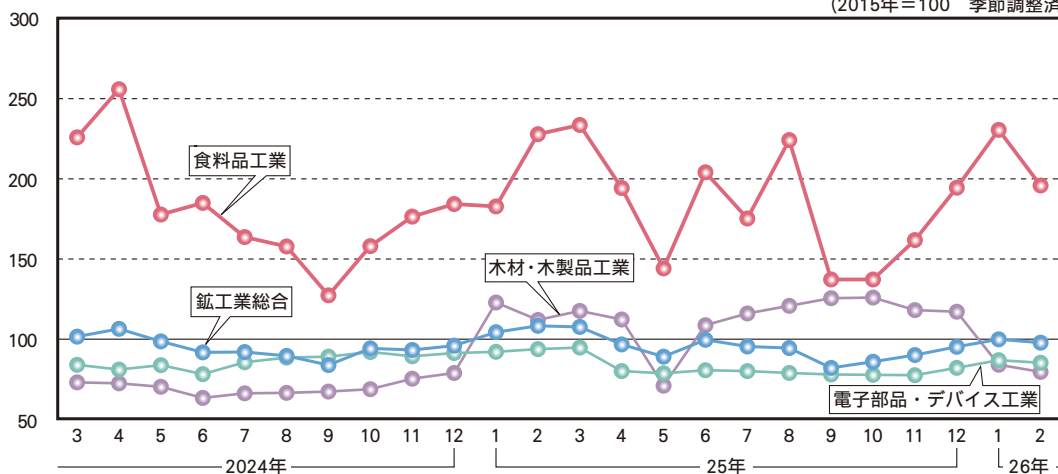
住宅着工は2か月連続で前年を下回った。個人消費は、新車乗用車販売台数が新型車等の市場投入不足などから、11か月連続で前年を下回ったが、小売店販売額（2月）は16か月連続で前年を上回るなど、全体として緩やかに回復している。

有効求人倍率は前月比0.04ポイント低下の1.18倍となった。新規求人数は前年比3.4%減と2か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比38.7%減と6か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は10件、負債総額は7億6,000万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」

電子部品

生産額、高水準続く

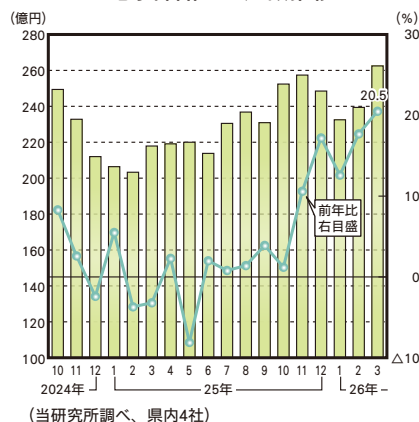
3月の生産額は前年比20.5%増となり、10か月連続で前年実績を上回った。

車載向けはEV市場の低迷により減少傾向にあるものの、AI関連の需要拡大にともない、データセンター向けのHDD部品の生産が増加し、総体では活況が続いている。

その他品目別では、主力のコンデンサ等は増加傾向が続く。液晶パネルは前年の反動による一服感はみられるが依然高い水準で推移し、半導体素子は一進一退となっている。

なお、1～3月期は前年同期比17.0%増、2025年度通期は前期比6.5%増となった。

電子部品の生産額推移



機械金属

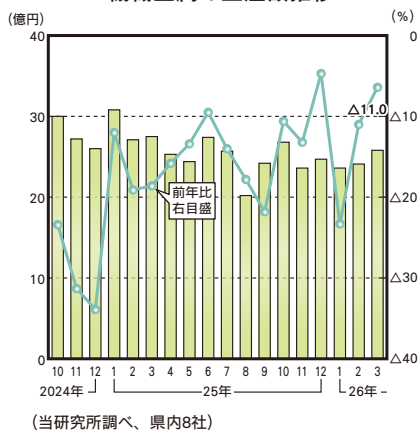
生産額、25か月連続で前年比減少

3月の生産額は前年比6.4%減となり、25か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、海外向けの需要増により一部で回復しているものの、国内メーカーの車種生産終了の影響が大きく、総体では低迷が続いている。その他民需関連では、減少が続いていた産業機械、建機部品はいずれも持ち直しの兆しがみられ、金型は一進一退の動きが続く。公共工事関連では、橋梁・鉄骨、水道部品とも堅調に推移している。

なお、1～3月期は前年同期比14.0%減、2025年度通期は前期比13.6%減となった。

機械金属の生産額推移



木材業

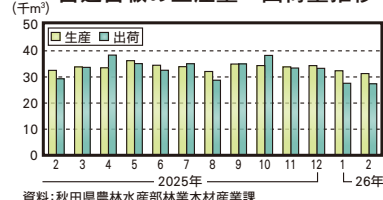
合板の生産・出荷が2か月連続で前年比減少

全国的に住宅着工の減少により木材需要が低迷する中、本県では県北の大型製材工場稼働等により製材の供給増加が続いていたが、年初以降は製材、合板とも減少に転じている。

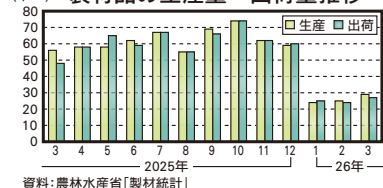
2月の普通合板は、生産量は前年比3.8%減、出荷量も同6.5%減と、いずれも2か月連続で前年比減少となった。2024年12月以降、流通段階での在庫調整が進んでいたこと等により13か月連続で前年比増加が続いたが、その影響が一巡したことなどにより、2026年1月から前年比減少に転じている。

3月の製材品は、生産量が前年比48.2%減、出荷量が同43.8%減と、ともに3か月連続で前年比減少となった。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

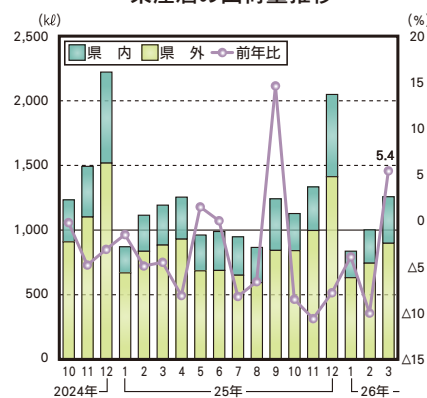


酒造業

出荷量、6か月ぶりに前年比増加

3月の清酒出荷量は、前年比5.4%増となった。一部メーカーで4月の商品価格引上げを前に駆け込み需要が生じたため、6か月ぶりに前年を上回った。出荷先別では、県内向けは同16.3%増、県外向けも同1.6%増となった。県外の主な出荷先別では、東京都が同23.2%増、北海道は同10.3%増、東北5県も同14.3%増といずれも前年比二桁増となったが、その他の府県は同24.7%減となった。種類別では、普通酒は同11.2%増となったが、特定名称酒は同0.7%減となった。特定名称酒の内訳では、吟醸酒は同0.9%増、本醸造酒も同7.3%増となったが、純米酒が同4.3%減と前年を下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建設業

公共工事 国等が増加し前年を上回る

3月の公共工事請負金額は、国、独立行政法人等が増加し、総体では前年比2.8%増と2か月連続で前年を上回った。2025年度計の実績は前年度比11.6%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の3月の新規受注額は、前年比53.8%減の4,530百万円となり5か月連続で前年を下回った。うち官公庁工事は、河川整備等の大口工事があったものの、同37.3%減と前年を下回った。民間工事は、製造業の事務所建設の大口工事があったものの、同74.8%減と前年を下回った。2025年度計の実績は、前年度比11.1%増となった。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区分	3月	前年比	2025年度計	前年度比
件数	252	△8.7	2,293	△4.2
請負金額	20,544	2.8	193,404	11.6

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区分	3月	前年比	2025年度計	前年度比
官公庁	3,444	△37.3	29,534	45.7
民間	1,086	△74.8	5,553	△50.9
合計	4,530	△53.8	35,087	11.1

(当研究所調べ、県内12社)

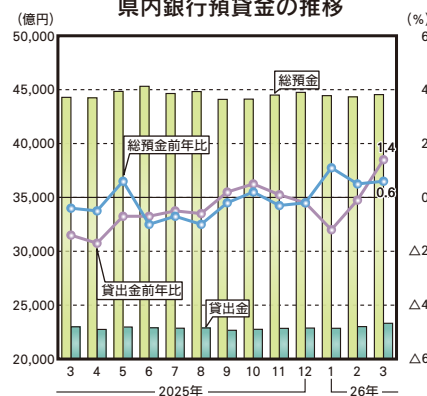
金融

貸出金、4か月ぶりに前年比増加

3月末の県内銀行の預金は、前月末比209億円増加し、前年比でも0.6%の増加となった。貸出金は、前月末比310億円増加し、前年比でも1.4%の増加となった。預金は3か月連続で、貸出金は4か月ぶりに前年を上回った。

3月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は10件(前年比5件増)、負債総額は7億6,000万円(同11.3%増)となった。倒産件数は2025年1月以来14か月ぶりに二桁となった。負債総額は、小規模事業者の割合が高かったことから、増加幅は小幅に止まった。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会

住宅着工

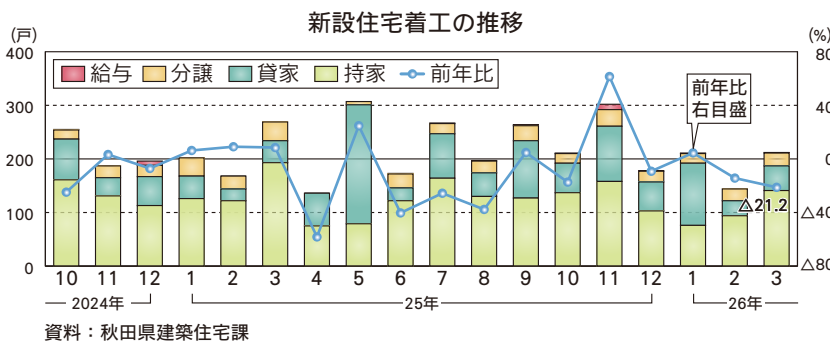
着工戸数、2か月連続で前年比減少

3月の県内新設住宅着工戸数は、212戸（前年比57戸減、21.2%減）であった。貸家と給与住宅は増加したものの、主力である持家が大幅に減少したほか、分譲住宅も減少し、2か月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が141戸（前年比52戸減）、貸家が46戸（同5戸増）、分譲住宅が24戸（同11戸減）、給与住宅が1戸（同1戸増）となった。

持家は、4か月連続で前年を下回った。貸家は、秋田市で大幅に増加したほか、仙北地域でも増加し、4か月連続で前年を上回った。分譲住宅は、4か月連続で前年を下回った。

地域別では、県北は持家と貸家、県南は持家と分譲住宅の着工がそれぞれ減少し、前年を下回った。県央は、貸家の着工が増加し、前年を上回った。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2026年3月	前年比	26年1~3月	前年比
県北	26	△62.3	51	△60.8
県央	143	2.9	406	15.0
県南	43	△29.5	110	△29.5
合計	212	△21.2	567	△11.3

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

全体として緩やかに回復している

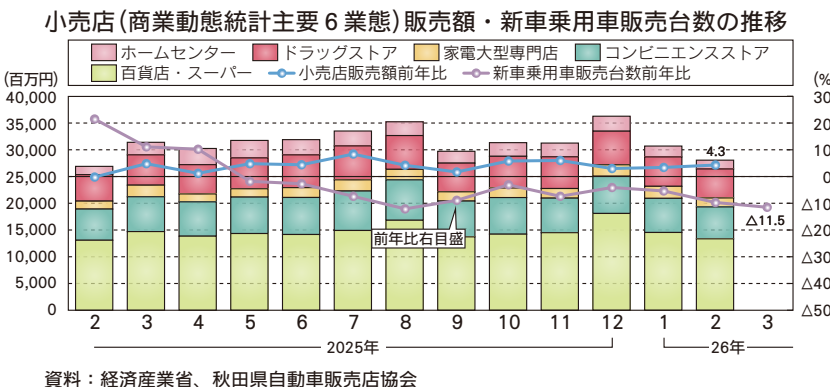
2月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比4.3%増となり、16か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、家電大型専門店（前年比13.0%増）、ドラッグストア（同9.5%増）、ホームセンター（同6.3%増）、コンビニエンスストア（同2.3%増）、百貨店・スーパー（同2.0%増）とすべての業態で前年を上

回った。

3月の新車乗用車販売台数は、新型車等の市場投入不足や「自動車税環境性能割」の廃止前の買い控えなどから、前年比11.5%減と11か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、軽乗用車が同4.8%増と2か月ぶりに前年を上回ったものの、登録車は同21.6%減と11か月連続で前年を下回った。



3月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	3,726	△11.5
登録車	2,032	△21.6
普通車	1,210	△17.0
小型車	739	△28.8
輸入車	83	△13.5
軽乗用車	1,694	4.8

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比) (単位：%)

区分	2025年12月	2026年1月	2月
①消費者物価指数	1.5	0.9	0.7
②勤労者名目賃金	5.4	5.0	3.9

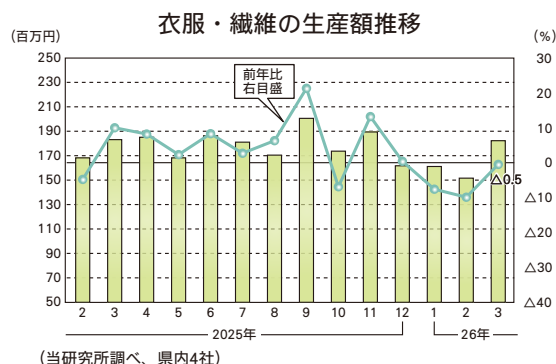
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、3か月連続で前年比減少

3月の生産額は、前年比0.5%減となった。百貨店の売場減少の影響などを受け、3か月連続で前年を下回った。

受注は、平均ロット数の減少などから、3か月連続で前年を下回った。また、賃上げにともなうメーカーとの工賃引上げ交渉により、受注量の減少が懸念される。



雇用

弱い動き

3月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.04ポイント低下の1.18倍となった。常用の内訳では、一般は同0.06ポイント低下の1.30倍、パートは同0.08ポイント低下の0.82倍となった。

新規求人数は前年比3.4%減となり、2か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同6.6%増となった。「木材・木製品」「金属製品」で減少したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」で一部の企業の業績好調にともない増加した。非製造業は同4.6%減となった。「運輸、郵便」「生活関連サービス、娯楽」で増加したものの、

「医療、福祉」で複数の介護施設の人員配置見直しなどにともない減少したほか、「宿泊、飲食サービス」でも利用客数減少などにともない減少した。

新規求職者数は前年比2.7%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比38.7%減となり、6か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.28倍、県央が1.10倍、県南が0.97倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

区 分		2026年2月	前年比	3月	前年比
新	規 求 人 計	7,421	△0.4	7,265	△3.4
主 要 業 種 の 内 訳	製 造 業	789	16.9	839	6.6
	食 料 品	117	8.3	106	9.3
	織 維	84	3.7	139	11.2
	木 材・木 製 品	30	△6.3	44	△6.4
	金 属 製 品	63	6.8	79	△2.5
	電 子 部 品・デ バ イ ス・電 子 回 路	145	54.3	121	30.1
	電 気 機 械 器 具	50	8.7	49	14.0
	非 製 造 業	6,632	△2.2	6,426	△4.6
	建 設	898	△6.8	1,107	△6.1
	運 輸、郵 便	325	25.0	365	29.9
	卸 売、小 売	954	10.5	785	△7.2
宿 泊、飲 食 サ ー ビ ス	426	△6.6	470	△7.8	
生 活 関 連 サ ー ビ ス、娯 楽	191	△8.2	255	29.4	
教 育、学 習 支 援	124	△3.1	213	△6.6	
医 療、福 祉	1,477	△7.5	1,386	△14.2	
サ ー ビ ス	977	9.3	963	△8.3	
新 規 求 職 者 数	4,143	△0.2	4,197	2.7	
有 効 求 職 者 数	16,986	3.9	17,295	2.6	

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

区 分		2025年12月	2026年1月	2月	3月
有 効 求 人 倍 率	常 一 般	1.45	1.41	1.36	1.30
	パ ー ト 時 間	0.82	0.92	0.90	0.82
	全 数 (季 調 値)	1.20	1.23	1.22	1.18
事 業 主 合 適 離 職 者 数		294	217	124	125
前 年 比		△12.0	△11.4	△55.7	△38.7

3月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県 北	1,719	△1.9	1.28	△0.12
県 央	3,357	△4.4	1.10	△0.06
県 南	1,570	△2.1	0.97	△0.07
合 計	6,646	△3.2	1.10	△0.08

(注) 臨時・季節を除く